

# 土なし・自動給水 1セット800円

## 栽培セラミックス革命

土がいらない。水まわりの手間も大幅に省ける。植物栽培の画期的な転換をはかる技術が、内部に細かなすき間を持った特殊なセラミックスを使って開発された。二十八日に大阪の住宅設備フェアで公開される。実用化されれば、最近はやりのガーデニングには格好の道具、また、砂漠の緑化にも役立つのではと期待されている。(地域報道部・高田 浩一)



赤井さんは約二十年前に府立大助教授の本城尚正さま(公をはじめ、京大や府立大の林学科の卒業生ら総勢八人で研究に当たり、このほど実用化のめどをつけた。セラミックスは植物の育ちやすいものを求め、焼く温度、素材の陶土、仕上げた時の形を変え五、六十種を試作した。

**●水10分の1**  
この技術は、元京大助教授で東京農大講師の赤井龍男さん(左)を中心とした植物栽培の基礎研究グループが開発した。陶土を高温で焼き上げたセラミックスの板で、植物の根の部分はほとんど栽培する。水はそばに置いたタンクから、グラスファイバーのひもを伝いセラミックスの中にあるすき間を毛細管現象で通って、植物に供給される。土を入れた通常の鉢物

### 東農大講師ら開発



ガーデニングに砂漠緑化に  
自動的・機械的に補給できる。園芸や農業で最近はやりの水耕栽培とも違う。水耕栽培は、水を循環させるための動力が必要で、大量の水を使うケースもある。セラミックスの表面をコーティング加工すれば水の蒸発も防げる。従来の水やりと比べ、水の量は十分の一から三十分の一でいい。手間も、鉢物は一通

●花・野菜50種  
京都府久御山町にある民間の研究所で、このように、容器も薄く小さくて

約一年前から、元京大府立大助教授の本城尚正さま(公をはじめ、京大や府立大の林学科の卒業生ら総勢八人で研究に当たり、このほど実用化のめどをつけた。セラミックスは植物の育ちやすいものを求め、焼く温度、素材の陶土、仕上げた時の形を変え五、六十種を試作した。

また種のような水分の要求量が大きい植物や菊の栽培はうまくいかない。しかし、研究陣は「セラミックスの組成を変えれば対応できるのではないか」と自信を持って、実験装置の材料費は、セラミックスと給水用グラスファイバー1セットで約八百円、量産できればもっと安くなるという。

また種のような水分の要求量が大きい植物や菊の栽培はうまくいかない。しかし、研究陣は「セラミックスの組成を変えれば対応できるのではないか」と自信を持って、実験装置の材料費は、セラミックスと給水用グラスファイバー1セットで約八百円、量産できればもっと安くなるという。



朝日新聞 夕刊  
朝日新聞東京本社  
東京都中央区東區橋5丁目3番2号  
電話 03-3645-0131 7:10~11  
©朝日新聞東京本社 1997

「1997年 7月24日(木曜日) 東京版夕刊・1面に掲載」

# 土いらず 節水 省力

## セラミックスで植物栽培

### 元京大助教授 グループ開発

土がいらない。水まわりの手間も大幅に省ける。植物栽培の画期的な転換をはかる技術が、内部に細かなすき間を持った特殊なセラミックスを使って開発された。実用化されれば、最近はやりのガーデニングには格好の道具、また、砂漠の緑化にも役立つのではと期待されている。



赤井さんは約二十年前に府立大助教授の本城尚正さま(公をはじめ、京大や府立大の林学科の卒業生ら総勢八人で研究に当たり、このほど実用化のめどをつけた。セラミックスは植物の育ちやすいものを求め、焼く温度、素材の陶土、仕上げた時の形を変え五、六十種を試作した。

## ガーデニングに／砂漠緑化に期待

この技術は、元京大助教授で東京農大講師の赤井龍男さん(左)を中心とした植物栽培の基礎研究グループが開発した。陶土を高温で焼き上げたセラミックスの板で、植物の根の部分はほとんど栽培する。水はそばに置いたタンクから、グラスファイバーのひもを伝いセラミックスの中にあるすき間を毛細管現象で通って、植物に供給される。土を入れた通常の鉢物は、植物が吸収するほか、土の表面から蒸発したり、鉢の下から流れ出したりで、毎日のように水やりが必要だ。ところが、この方法だと、植物が吸って、消費した分だけ自動的に補給

この技術は、元京大助教授で東京農大講師の赤井龍男さん(左)を中心とした植物栽培の基礎研究グループが開発した。陶土を高温で焼き上げたセラミックスの板で、植物の根の部分はほとんど栽培する。水はそばに置いたタンクから、グラスファイバーのひもを伝いセラミックスの中にあるすき間を毛細管現象で通って、植物に供給される。土を入れた通常の鉢物は、植物が吸収するほか、土の表面から蒸発したり、鉢の下から流れ出したりで、毎日のように水やりが必要だ。ところが、この方法だと、植物が吸って、消費した分だけ自動的に補給

の水耕栽培とも違う。水耕栽培は、水を循環させるための動力が必要で、大量の水を使うケースもある。セラミックスの表面をコーティング加工すれば水の蒸発も防げる。従来の水やりと比べ、水の量は十分の一から三十分の一でいい。手間も、鉢物は一通

●花・野菜50種  
京都府久御山町にある民間の研究所で、このように、容器も薄く小さくて

約一年前から、元京大府立大助教授の本城尚正さま(公をはじめ、京大や府立大の林学科の卒業生ら総勢八人で研究に当たり、このほど実用化のめどをつけた。セラミックスは植物の育ちやすいものを求め、焼く温度、素材の陶土、仕上げた時の形を変え五、六十種を試作した。

また種のような水分の要求量が大きい植物や菊の栽培はうまくいかない。しかし、研究陣は「セラミックスの組成を変えれば対応できるのではないか」と自信を持って、実験装置の材料費は、セラミックスと給水用グラスファイバー1セットで約八百円、量産できればもっと安くなるという。

また種のような水分の要求量が大きい植物や菊の栽培はうまくいかない。しかし、研究陣は「セラミックスの組成を変えれば対応できるのではないか」と自信を持って、実験装置の材料費は、セラミックスと給水用グラスファイバー1セットで約八百円、量産できればもっと安くなるという。



朝日新聞 夕刊  
朝日新聞大阪本社  
大阪府北区中之島3丁目11  
電話 06-231-0131  
郵便振替口座 0050-2-550番  
©朝日新聞大阪本社 1997

「1997年 8月12日(火曜日) 大阪版朝刊・市内面に掲載」